

# 「学びを支える図書館活用及びICT環境」

～教科横断的な力を育むために～

キーワード	①学校図書館を活用し、意図的・計画的に読む学習・調べる学習を実践することで思考力・判断力・表現力等を育むことができるだろう。 ②学校図書館やICT活用で児童の探求的な学びを支え、さらに学びを広げていくことで教科横断的な力を育むことができるだろう。
学校名	千葉県流山市立西初石小学校
所在地	〒270-0121 千葉県流山市西初石4丁目347番地
ホームページ アドレス	<a href="http://www.nagareyama.ed.jp/nshatusyou/">http://www.nagareyama.ed.jp/nshatusyou/</a>

## 1. 研究の背景

### (1) 文部科学省(学校図書館)から

近年、生活環境の変化や様々なメディアの発達・普及などを背景として、国民の「読書離れ」「活字離れ」が指摘されている。読書することは、「考える力」、「感じる力」、「表す力」等を育てるとともに、豊かな情操を育み、すべての活動の基盤となる「価値・教養・感性」等を生涯を通じて涵養していく上でも、極めて重要である。また、特に、変化の激しい現代社会の中、自らの責任で主体的に判断を行いながら自立して生きていくためには、必要な情報を収集し、取捨選択する能力を、誰もが身に付けていかなければならない。すなわち、これからの時代において、読み・調べることの意義は、増すことはあっても決して減ることはない。このように見たとき、本を読む習慣、本を通じて物事を調べる習慣を、子どもの時期から確立していくことの重要性が、あらためて認識される。また、そのためには、学校教育においても、家庭や地域と連携しながら、読書の習慣付けを図る効果的な指導を展開していく必要があり、とりわけ学校図書館がその機能を十全に発揮していくことが求められる。

学習指導要領(総則)においても、指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項として、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童(生徒)の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」とされている。

また、平成27年4月に出された「みんなで使おう！学校図書館」のリーフレットには、学校図書館は図書館資料を児童生徒や教員の利用に供すること等により、「学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成すること」を目的とするものであり①読書センター：読書活動の拠点となること。②学習センター：授業に役立つ資料を備え学習支援を行うこと。③情報センター：情報活用能力を育むこと。の3つの役割を担っている。学校図書館が充実し、その役割を果たすことで、「読書好きの子どもを増やし、確かな学力、豊かな人間性を育む」「探究的な学習活動等を行い、子どもの情報活用能力を育む」「授業で蔵書・新聞等を利活用し、思考力・判断力・表現力等を育む」ことなどが期待されている。また、「言語活動、読書活動等の充実を通じ教員の指導力も向上する」「悩みを抱える子どもの『心の居場所』となる」ことも考えられている。

全国学力・学習状況調査では、読書好きな児童生徒の方が正答率が高い傾向が見られている。また、学力に影響を与える保護者の関与としても読書は大きな影響があることも確認されている。このようなことを踏まえると、読書は身に付けるべき生活習慣であるとさえ考えられている。

## (2) 千葉県学校教育指導の指針・千葉県子ども読書活動推進計画から

平成27年度千葉県学校教育指導の指針では、小学校学習指導要領や「新みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」等に基づき各学校が重点的に取り組むべき事項が示されている。学校図書館においては、人生を拓く「確かな学力」を育む項目の中に読書活動の充実が位置付けられている。①読み聞かせや調べ学習等の読書活動を一層充実し、自ら進んで読書に親しむ意欲と態度を育成する。②学校の読書活動全体計画等を作成し、図書館等と連携するなど、学校図書館の活性化を図る。③「学校図書館自己評価表」や読書啓発リーフレット「子どもに読ませたい本100選(小学校版)」等を活用して、学校図書館の整備に努めることが求められている。

また、平成27年3月に出された千葉県子ども読書活動推進計画(第三次)の基本理念は『子どもと本をつなぐ・子どもの本でつながる 読書県「ちば」の推進』であり、子どもは読書により、多くのものを身につけ成長し、読書は子どもが人生をより深く生きるために不可欠なものだとしている。そして、読書活動の工夫例では「ポップづくり・ブックトーク・ビブリオバトル・アニメーション」が挙げられている。

## (3) 魅力ある流山の教育から

流山市の学校教育指導の指針として「魅力ある流山の教育～学力・気力・体力の三つの柱を基軸として～」を示している。児童生徒の自立のため①意欲的に知識・技能を身に付ける。②自ら学び思考し表現する。③積極的にコミュニケーションをとる。④互いを尊重し、豊かな人間関係を築く。⑤強い意志を持ち、最後まであきらめない。⑥運動に親しみ、体力向上をめざす。としている。学校図書館においては、「確かな学力の育成」の項目の中に読書活動の推進が位置付けられている。

## (4) 本校の学校教育目標、児童の実態から

本校の学校教育目標である「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かなたくましい子どもの育成」を目指し、平成23年度から「表現力を高め、考える力を育てる～算数科の学習を通して～」を研究主題にテーマに5ヶ年計画で研究を進めてきている。1, 2年目を「見出す」、3, 4年目を「ためす」、5年目を「かたちづくり」と位置付け今年度は5年目になる。平成26年度より文部科学省英語教育強化地域拠点事業の指定を受け、「グローバル化に対応した英語教育への第一歩～コミュニケーション活動を通して、進んで自分を表現しよう～」を研究主題に5, 6年生の英語科必修化に向けての研究も進めている。

平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定され、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の策定などその推進が図られている。本校では、教育課程の朝学習「ぐんぐんタイム」に毎週月曜日「読書タイム」を位置付けている。また、保護者ボランティアによる読み聞かせの「お話タイム」の取り組みや、ブックトーク、アニメーションを授業に取り入れた活動も行っている。図書委員会では、「読書週間」を設定し、より多くの児童が図書室に足を運び、読書に親しむ取り組みを行っている。昨年度は年間平均一人約10冊の貸し出し状況だった。しかし、「本を読むこと」については、学年が上がるに従って「好き」「好きではない」の2極化していくのが現状である。

学校図書館の授業での活用においては、総合的な学習の時間の創設により、横断的・総合的な学習や子どもたちの興味関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うことや、教員の関心も高めていくことが求められている。学校図書館は、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援するとともに、情報の収集・選択・活用能力を育成して、教育課程の展開に寄与する「学習・情報センター」として次の機能を果たさなければならない。①図書室で、図書館資料を使って授業を行うなど、教科等の日常的な指導において活用する。②教室での授業で学んだことを確かめ、広げ、深める、資料を集めて、読み取り、自分の考えをまとめて発表するなど、児童生徒の主体的な学習

活動を支援する。③利用指導等の取り組みを通じ、情報の探し方・資料の使い方を教える。④児童生徒が学習に使用する資料や、児童生徒による学習の成果物などを蓄積し、活用できるようにする。

「調べ学習」になると多くの児童はインターネットでの検索を選択しがちである。しかし、パソコンを前にしてどうやって検索していいかわからない児童や、検索したけれど、どの情報が正しくて必要かの判断ができない児童が見られる。このような現状から千葉県教育研究会学校図書館教育部会研究指定を受け、全教科を底支えする「調べる学習の充実」のため、本を使って目次、索引を活用する研修を行い、授業に取り入れ実践しながら研究を進めてきた。本校の図書室は広さや蔵書の面において決して充実しているとは言えない。しかし、空き教室の配置を工夫したり、流山市の図書館と連携したりしながら学校図書館の活用を充実させている。そして、児童に「調べ方・学び方」の原点を身に付けて欲しいという願いからこの主題を設定した。

## 2. 研究の目的

学校図書館における「読書センター」「学習・情報センター」としての機能の充実を図り、学校図書館(図書)を活用して、読む学習・調べる学習を行うことで、教科横断的な力の育成を目指す。

## 3. 研究の方法

- ①学校図書館における「読書センター」「学習・情報センター」としての機能や、学校図書館(図書)を活用して、読む学習・調べる学習について児童、教師に事前の実態調査を行う。
- ②調査をもとに学校図書館における「読書センター」「学習・情報センター」としての機能や、学校図書館(図書)を活用して、読む学習・調べる学習について充実を図る。
- ③学校図書館における「読書センター」「学習・情報センター」としての機能や、学校図書館(図書)を活用して、読む学習・調べる学習について児童、教師に変容の実態調査を行う。

## 4. 研究の内容・経過

児童の実態に即しながら、児童にどんな力をつけたいか、どんな姿になって欲しいかにこだわり、本やICTを活用した活動、指導を児童に意識させること、教師が意識することに分けて実践した。

### 児童に常に意識させる

- ①本やICTを活用し、自分の調べたいもの、調べているものをはっきりさせ、大切な部分を書き抜くこと。
- ②引用するときにはルールがあること。
- ③なるほどカードや付箋等を活用して分類すること。

### 教師が常に意識する

学習のゴールは設定するが、まとめ方やその内容は、児童が探究的に活動してきたことが、感じられるものになるよう支援すること。

## 5. 研究の成果

### 成果

- ①図書室の整備を意図的・計画的に進めたことによって、本に親しむ児童が増えた。
- ②学校図書館やICTを活用しながら読む学習・調べる学習の実践は児童の探究的な学びの支えになることがわかった。また、思考力・判断力・表現力を育むことができた。

## 課題

- ①教科横断的な力や情報活用能力をつけていくことは、簡単ではなく、日常的に学習活動を設定しながら、指導の継続が必要であるということ。
- ②校舎配置を工夫してスペースを確保したが、毎年このような配置ができるとは限らず、配架できる蔵書冊数には限界があり、だからこそ、市の図書館との連携やICTとの併用をしながら行っていくことが必要だということ。
- ③若い教員が多くなり、その指導力向上が喫緊の課題となっている現在、ベテラン教員からの指導法の伝達や、保護者や地域との連携を図りながら、図書館教育や図書室環境の維持、継続をしていくこと。

## 6. 今後の課題・展望

平成26年度から文部科学省の英語教育強化地域拠点事業の指定を受け外国語活動、英語科の研究を行っている。3・4年生では週1時間の外国語活動、5・6年生では平成28年度から週2時間の英語科の授業のため、さらにICT環境を整えていきたい。

## 7. おわりに

パナソニック教育財団実践研究助成の支援のもと、今回の研究を通して、児童が学校図書館にある図書に触れ、活用する経験・体験ができたことは非常に大きな収穫であった。また、高学年においては図書館資料だけではなく、ICT機器を活用する等、探求的な学習活動に発展することができた。今後は学校図書館だけでなく、市立・県立・国立図書館の利用へとつながるきっかけとなればとも考える。また、今回の研究では若手職員とベテラン職員の協働性が様々な場面で見られ、互いにとって良い機会となったことにも感謝を申し上げたい。

## < 参考文献 >

- ・文部科学省HP(学校図書館)
- ・文部科学省学習指導要領(総則)
- ・文部科学省「みんなで使おう！学校図書館」リーフレット
- ・平成27年度千葉県学校教育指導の指針
- ・千葉県子ども読書活動推進計画(第三次)
- ・平成27年度流山市の学校教育指導の指針